

かわらばん

令和8年度 研修視察

人権学習推進委員会主催の研修視察を8月22日（土）に連島中学校区と水島中学校区の3館合同企画で32名の参加者で実施しました。視察先は「神戸市立海外移住と文化の交流センター」です。

人権啓発指導員の岸本先生によるバス内研修は、「祖国を離れて暮らす人々」について移民、難民、在留外国人等々、日本を中心として全世界的状況をクイズ形式で楽しく学習できました。神戸市立海外移住と文化の交流センターでは、次のようなことがわかりました。1908年（明治41年）4月、日本から最初の移住者781名を乗せた「笠戸丸」が神戸港を出港しました。約50日間（約2万キロ）の過酷な船旅を経てブラジルに到着した彼らは、主にサンパウロ州のコーヒー農園へと向かいました。しかし、当時の移民たちは、言葉や習慣の違い、過酷な労働環境、低賃金に苦しみました。

日系移民の歴史的功績として最も特筆されるのが、1970年代以降に行われた「セラード開発」です。当時、酸性が強く農業には全く不向きとされていたブラジル中央部の広大なサバンナ地帯（セラード）に、日本政府の技術・資金支援と日系農家たちの不屈の努力が注がれ、ついにセラードでの大規模農業が成功しました。現在では、ブラジルを世界の食糧輸出国へと押し上げる原動力となり、世界の食糧安全保障を支える奇跡的なプロジェクトとして、世界中から高く評価されています。1980年代以降、日本の労働力不足を背景に、今度はブラジルで暮らす日系2世や3世が出稼ぎとして祖父母の国・日本へ逆移住する現象が起きました。現在、日伯の歴史は「日本人がブラジルへ渡る物語」から日本国内での外国人住民との多文化共生、あるいはビジネスや文化を通じた現代のパートナーシップへと引き継がれています。神戸の港から人生を賭けて旅立った先人たちの歩みは、単なる移住の歴史にとどまらず、ブラジルの大地を豊かにし、そして現代の日本社会における多様性や国際的な結びつきの原点となっています。

連島南公民館



地域のみなさんとともに育つ子どもたち（小ざくら第二保育園）

保育園では、日々たくさんの地域のみなさんに支えられながら、子どもたちがのびのびと成長しています。

七夕会には地域の方や保護者の方をお招きし、子どもたちと一緒に季節の行事を楽しみました。夏休みには中学生ボランティアが来園し、子どもたちと遊んだり関わったりする中で、笑顔あふれる交流が生まれました。また、れんこん栽培では地域のれんこん農家さんから植え方や育て方を教えていただき、地域ならではの貴重な学びにつながっています。

さらに、園開放や連南サロンには地域の未就園児親子が来園され、子育ての交流や相談の場として親しまれています。

子どもたちは、地域のみなさんとの温かなふれあいの中で、人とのつながりや思いやりの心を育んでいます。これからも地域に開かれた保育園として、多くの方とのつながりを大切にしながら、子どもたちの豊かな育ちを支えていきます。



たなばた会



夏のボランティア



れんこん栽培

幼保連携型認定こども園めばえ保育園

まだまだ厳しい暑さが続いておりますが、皆様、いかがお過ごしでしょうか。

幼保連携型認定こども園めばえ保育園では、9月になり夏の行事が終わりを迎えます。今年の夏は、前半が比較的落ち着いた天候であったため、園外活動の中止も少なく、ほぼ予定通りにプールや水遊びを行うことができました。それでも連日の暑さで体調を崩す子ども達や保護者の方も多くおられました。9月以降も引き続き熱中症対策などを行って参りますので、皆様、ご協力をお願い致します。また暑さ対策の一環で、昨年からの運動会の開催を9月から10月に変更しております。本年度の運動会の日程は10月24日（土）の午前中となっておりますので、小学生以上の皆さんもぜひ遊びに来て下さい。まだまだ暑い日が続きますが、体調に気を付けて皆さん頑張りましょう。

◎めばえ運動会：10月24日（土）9：00開始予定

さて話は変わりますが、幼保連携型認定こども園めばえ保育園では、地域の子育て相談の窓口として子育て交流支援センターを開催しております。月に1回のイベントなども行っておりますので、子育て相談や気分転換など、どうぞお気軽に遊びに来て下さい。

◎めばえ子育て交流支援センター9月イベント：「センサリーボトルを作って遊ぼう」

9月12日（土） 9：45受付 10：00開始 ～ 11：00終了予定

※事前申し込みが必要です。以下の電話にご予約のお電話をお願い致します。

一時保育お問い合わせ・めばえ子育て交流支援センター：TEL086-444-3625